



赤壁全集

第一卷

第一回配本（全九巻）

赤彦全集 第一巻

定價 二千二百圓

昭和五年六月十五日 初版發行  
昭和十四年四月二十四日 再版發行 ©

著者 久保田俊彦  
発行者 岩波雄二郎

東京都千代田區神田一ツ橋二ノ三  
株式 會社 岩波書店

凸版印刷・三水舎製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

## 目 次

歌集 馬鈴薯の花以前 初期より

明治二十六年	十九首	三
明治二十七年	三首	六
明治二十八年	十四首	元
明治二十九年	三首	三
明治三十年	七首	四
明治三十二年	七首	三
明治三十三年	二十一首	三
明治三十四年	五十一首	三
明治三十五年	十五首	四
明治三十六年	百五十四首	四
明治三十七年	百五十首	五
明治三十八年	百二十五首	五

明治三十九年	五十六首	三元
明治四十年	百〇九首	三元
明治四十一年	百八十七首	一元
明治四十二年	五十八首	一元
		九〇

歌集 馬鈴薯の花

明治四十二年	十首	一〇
明治四十三年	三十一首	一〇三
明治四十四年	四十九首	一〇六
明治四十五年・大正元年	百五十一首	一四
大正二年	四十首	三六

歌集 切火

八丈島(大正三年)	一四
船 上	一四
島 の 踊	一四

胡蘿子の葉	150
椿の木	151
島の芒	151
バナナ畑	151
ある時は	151
森林	151
山の國(大正二年)	1巻
諫訪湖	1巻
八ヶ岳	1巻
御牧ヶ原	1巻
高木村	1巻
雪の夜	1巻
乾ける空氣	1巻
陸奥の女	1巻
流らふ色	1巻

病院	一四
赤罿栗の花	一美
村會	一卷
寒國の女學校	一六
闇深く	一九
國を出づる歌(大正三年)	二〇
家を出づ	二〇
輕井澤	二七
路地	二七
十年	二七
街衢(大正三年)	二五
山櫻	二五
くさめ	二七
稻毛の海	二七
歸省	二七

野に焚く火

歌 澤

〔二〕

夕 燒

〔二〕

炭 團

〔二〕

羈 鳥

〔二〕

## 歌集 氷魚

大正四年

山國の春

〔二〕

貰はるる仔犬

〔二〕

小石川植物園

〔二〕

妻と子 一・二・三・四

〔二〕

左千夫先生三周忌

〔二〕

妻と子 五

〔二〕

御即位式奉祝歌

〔二〕

朝顔の花	一五六
蓮の花	一五九
縁日	二〇一
渡鳥	二〇一
栗	二〇四
露	二〇五
佛	二〇五
子ども	二〇六
吹雪	二〇七
獨坐	二〇八
あなぐら	二〇九
大正五年	二一二
新年	二一一
校正のかへり	二一一
長塚節一周忌	二一一
窓外春雪	二一一

親雀	三四
あかつき	三四
はふ鳶	三一六
毛野の山	三一六
春の山	三一七
山路	三一七
御嶽講社	三一八
早稻田田圃	三一九
偶作	三一九
雛燕	三一〇
あらし	一一一
お舟祭	一一一
歸國	一一一
山の原	一一一
疊山の上	一一一
目次	三四

百 日 紅	三六
柚 子	三七
上 野 山	三七
野 分	三八
子 規 忌	三九
病 牀	一〇一・三
茂 吉 に 興 ふ	三九
大 正 六 年	三九
庭 土	三九
憲 吉 に 興 ふ	三九
わ か れ	三九
校 正	三九
嵐 の 空	三九
龜 原 の 家	一・二・三・四・五
善 光 寺	三九

梅と松

三三

木曾

三三

岩手以北

三三

北海道

一・二・三

三三

福島

三三

家に歸りて

三三

富士見原

一・二

三三

暴風雨の後

三三

百日紅

一・二

三三

海嘯のあと

三三

霧雨

三三

牟禮驛

三三

落葉松

三三

霜月

三三

佐久の原

三三

わが子	一〇
龜原	一一
逝く子	一二
大正七年	一二
正月	一二
善光寺	一二
校正室	一二
紅梅	一二
千檉に興ふ	一二
浅間山	一二
わが父	一二
高木の家	一二
轉居前	一二
土湯	一二
岩山	一二
元四	一二
元三	一二
元二	一二
元一	一二

飯山町一・二

番町の家一・二・三

二八五

二八九

大正八年

二五三

冬の雨

二五四

池田町

二五四

追分原

二五六

ウキルソン氏に寄す

二五七

講和大使

二五六

三月

二五九

睡蓮

二五九

番町

二六〇

本所の道

二六〇

龜戸

二六一

先生を思ふ

二六二

紫雲英

二六三

瀧溫泉	四〇四
郭公鳥	四〇五
大町	四〇六
大山居	四〇八
常盤村	四〇九
歸國	一・二
二階	四一〇
大正九年	四一一
冬の日	四一二
氷湖	一・二・三
春雨	四一八
歌集 太虛集	
大正九年	四二三
長崎	一・二・三

金華山

四六

瀧の湯

四〇

巖温泉

四一〇

冬田の道

四一一

大正十年

四二三

生くるもの

四二三

をりをり

四二四

梅雨ごろ

四二五

富士見

四二六

松林

四二七

このごろ

四二八

桑畑

四二九

木曾御嶽

四三〇

太平洋會議

四三一

森本富士雄君の洋行を送る

四三二

土用	園
歌集「藤浪」に題す	園
皇太子殿下御渡航	園
齋藤茂吉西歐に向ふ	園
初冬	園
諫訪湖	園
しはす	園
試験	園
吳博士在職二十五年を祝す	園
大正十一年	園
小寒	園
初春	園
生々諸相	園
折々の歌	園